

国際野球連盟が日本人審判と女子野球選手を表彰

国際野球連盟は12月3日、第26回総会を米国、テキサス州ダラスで開催し、同夜テキサス・レンジャーズ球場に於ける晩餐会の席上2010年各種の表彰を発表した。

2010年の「アンパイア・オブ・ザ・イヤー」としては、同年のインターコンチネンタル・カップ(台湾)決勝で主審を務めた小谷啓介氏(写真右下)が選出され、2010年の「女子・アスリート・オブ・ザ・イヤー」には同年、日本が優勝した世界女子野球選手権(ベネズエラ)でMVPに選ばれた六角彩子さん(サムライ・ヴィーナスリーグ、写真左下)が受賞の栄に浴した。

なお、「アンパイア・オブ・ザ・イヤー」は、布施勝久氏(1993年)、田中美一氏(1995年)に続き3人目、「女子・アスリート・オブ・ザ・イヤー」は日本人としては初の受賞。

また、最近のIBAF表彰で日本からは2009年に東京読売巨人軍の原辰徳監督が「ザ・コーチ・オブ・ザ・イヤー」を受賞している。

